



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

## —あいなん音故地新—

伝承

先月の秋祭り、愛南町の各地区で伝統的な舞がありSNSを通じて楽しませてもらった。ある地区の唐獅子は稽古の様子をInstagramに投稿していて、今まで知ることのできなかった裏舞台を覗き見できて、毎日のようにチェックした。少しずつ上達していくお囃子と踊り、初めて知った口上。こんな風に伝承されてきたのか、と胸が熱くなった。人口が減り、子どもが減り、昔のような賑わいがなくなっていく中で続けていくことの大変さ、さらに感染症で3年間の休止というのは受け継いでいくには長く大きい期間やったんやないかと想像すると、またこうして私たちの目に触れられることがとてもありがたく、秋祭りに関わってくださった方々ひとりひとりに心から感謝を伝えたい気持ちになった。愛南町に残る伝統がこれからも長く長く伝承されることを心から祈る。

今年も残すところあと1カ月。愛南町のみなさんの活躍をたくさん見聞きできた1年でした。そしてそれに背中を押されながらやってきた1年でした。これからも自分にできることを探しながら愛南町の存在を広めていこうと思います。少し早いですが、みなさん、良いお年を。

(テノヒラkiku)



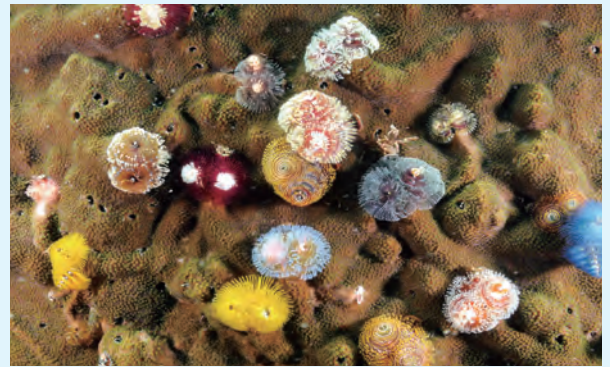
## 本日！海日和！！ vol.157

### 「クリスマスツリー」

クリスマスに年末商戦と街はにぎわい、色とりどりの飾りが華やかさを増してきている。私たちの気分も何となくウキウキしてしまう。

ダイビングをしていてイバラカンザシの集団を見つけると、いつもこのにぎわいを思い出す。イバラカンザシはゴカイの仲間で、自分で作った管の中に住み、鮮やかな色のエラを出して呼吸をしている。大きさは10円玉くらいで、サンゴと共生していることが多い。サンゴ一面を覆っている様子は、まさにクリスマスツリーである。これだけ色や模様がバラエティーに富んでいるのに、同じ種類なのが驚きである。

ダイビングあるあるで、イバラカンザシを見つけると、思わず指でつついてしまう。危険を察知し



【イバラカンザシ】

て、穴の中に引っ込んでしまうが、しばらくするとゆっくりと出てきてエラを広げる。まるで花が咲くようで、見とれてしまう。

イバラカンザシには迷惑だと思いながら、ついつい繰り返してしまう。海の中の楽しい遊びの一つである。

(撮影地：カナガサキ)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる